

第 1 2 回東京環状道路有識者委員会について

日 時：平成 1 4 年 1 1 月 1 5 日(金) 17:00～19:00

会 場：東条インペリアルパレス「千鳥の間」

出席者：（委員長）御厨 貴 政策研究大学院大学教授
 （委員）石田 東生 筑波大学社会工学系教授
 越澤 明 北海道大学大学院工学研究科教授
 中条 潮 慶應義塾大学商学部教授
 森田 恒幸 国立環境研究所社会環境システム研究領域領域長
 東京工業大学大学院教授

主な意見：

○外環の必要性の有無（効果と影響）に関する資料について

- ・項目によって資料の詳しさに差があるように見えるが、どのような趣旨で示したのか？
- 効果影響を示すために、最も影響が少なくなるであろう地下構造における I C の有無や移転の影響について示した。

○提言のポイントに対する各委員からの意見について

- 石田、森田委員メモ
- ・有識者委員会には必要性を判断するのではなく、必要性の資料の適切性と適切な議論の機会が与えられたかを判断すべき。
- ・前提条件の不確実性に対するシナリオを整理すべき。
- ・誘発交通が与える影響やその対応、経済効果の数字の幅、また間接的な経済効果についても今後提示し、協議会にも出していくべきで、今後の資料や議論を勘案して判断したい。
- 中条委員メモ
- ・協議会は意見集約を図るべきであり、情報提供を拒むべきでない。
- ・コストベネフィットを示し、その内容について可能な限り適切な手法で議論を始めるべき。
- ・コストベネフィットの議論は現時点の必要性について行うべきもの。
- 越澤委員メモ
- ・有識者委員会では情報や意見や考え方を広く示し、論点を明確化する役割を果たした。12月の提言後、いったん終了すべき。
- ・検討の各段階で、外環をやめる判断があり得ることも選択肢とすべき。
- ・移転戸数など地元への影響を考えると、インターチェンジなし地下案を基本として議論すべき。
- ・たたき台の提示から 2 カ年となる来年 3 月を目途に方針判断すべき
- ・地上部の利用については、外環の必要性の方針決定後にすべき。

○論点の整理について

- ・有識者委員会は今回の提言を境に一旦終了。技術的助言などの必要な機能を継続・新設させることについては、別途議論が必要。
- ・第一次提言以後、行政の積極的な P I の取り組みは評価できる。
- ・これまでの P I 活動の実績は参考資料で十分。
- ・ボイスレポートや平成 1 2 年アンケートを資料編に整理すべき。
- ・寄せられた意見の整理・分析として、広域でも沿道でも反対も賛成もあり、単純な構図（ステレオタイプ）で評価すべきでない。
- ・委員長と事務局で提言案を作り、次回の委員会までに、委員の間で意見交換し、とりまとめていく。

